

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

青森県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	岩木町立津軽中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	2	14	23
生徒数	116	125	151	2	392	

研究の概要

1. 研究主題

めあてを持って主体的に活動する生徒の育成  
～基礎・基本を確実に身につけさせるための授業研究～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

\* 全学年・全教科

全校生徒(生徒1人1人)の確かな学力の定着を図るために、全職員がそれぞれの教科で基礎・基本を確実に身につけさせるための授業研究・授業改善に取り組む。

\* 3年生・英語・数学

生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、選択教科の授業において習熟度別学習による研究を行う。

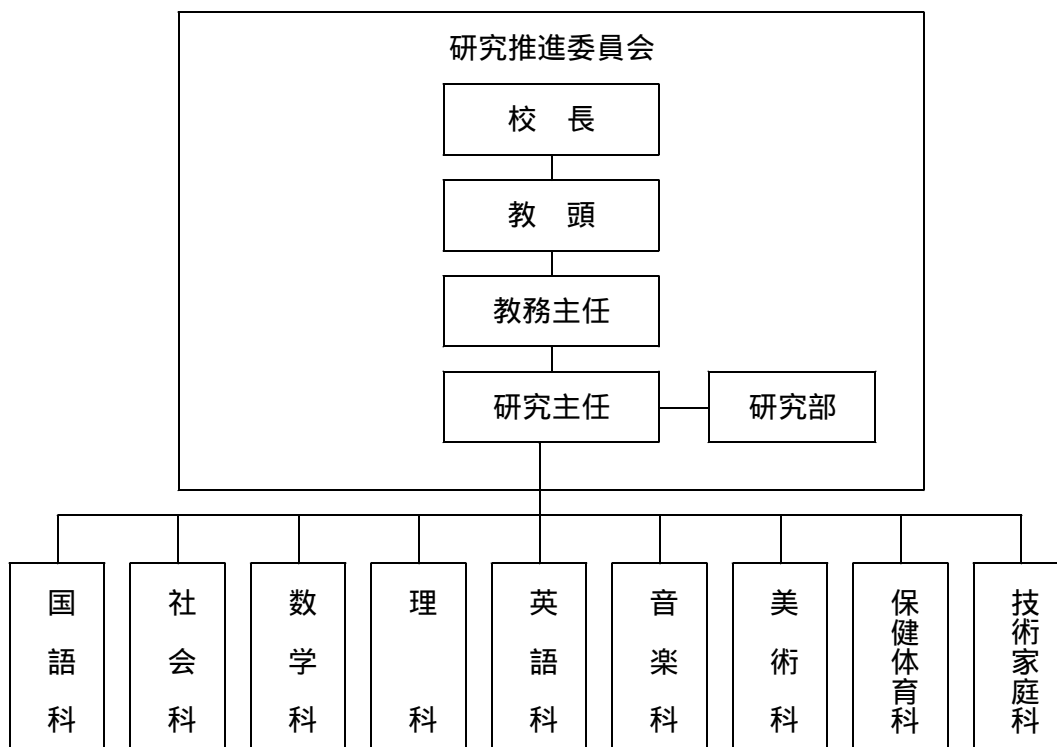
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本を確実に身につけさせるための授業研究</p> <p>研究の見通し 各教科において「基礎・基本を確実に身につけさせる」ために、評価活動を充実させるとともに、生徒一人一人の理解や習熟の程度による「つまづき」を克服したり、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた授業の充実を図ることによって、生徒の学習意欲が高まり、めあてを持って自ら学び自ら考えるという主体的な学習活動を行うことのできる生徒を育成できるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 選択教科における習熟度別学習(3年数学・英語) (2) 授業公開における授業の反省・改善(全教科) (3) ドリル学習と補充学習の充実 (4) 評価を生かした学習指導</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 基礎学力の向上を目指した授業と評価の研究</p> <p>研究の見通し 評価活動の充実によって、生徒一人一人の理解や習熟の程度を把握でき、授業の改善を図ることができる。結果的に生徒の学習意欲が高まり、基礎学力が向上するであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	--

- (1) 評価を生かした学習指導
- (2) 個に応じた支援を工夫した授業研究
- (3) 体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた授業研究
- (4) ドリル学習と補充学習の充実
- (5) 家庭学習の充実

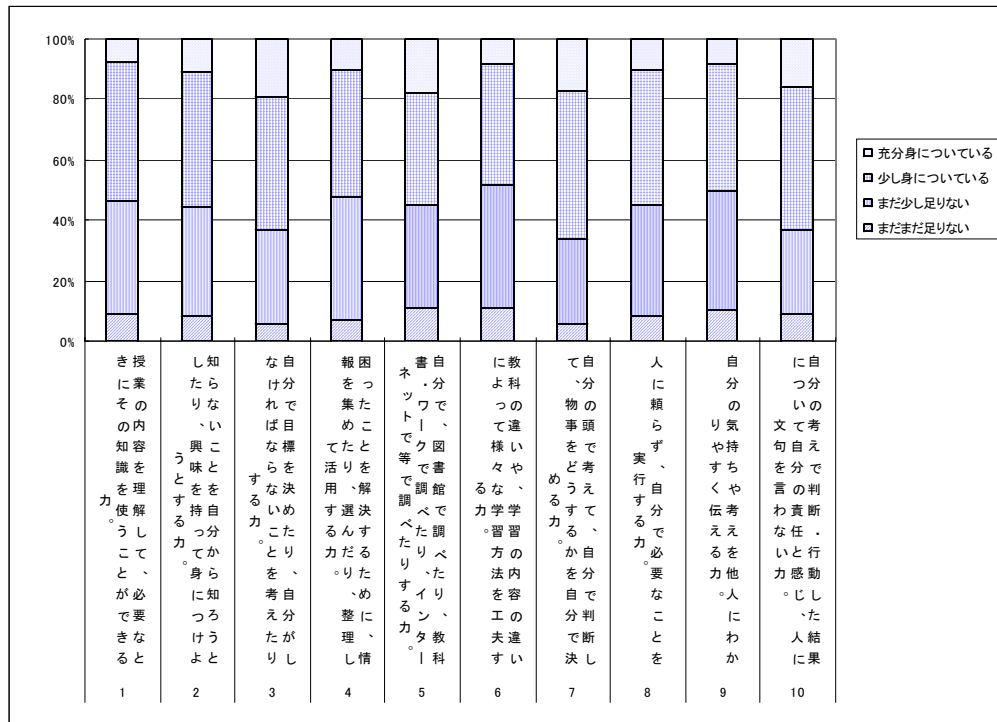
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

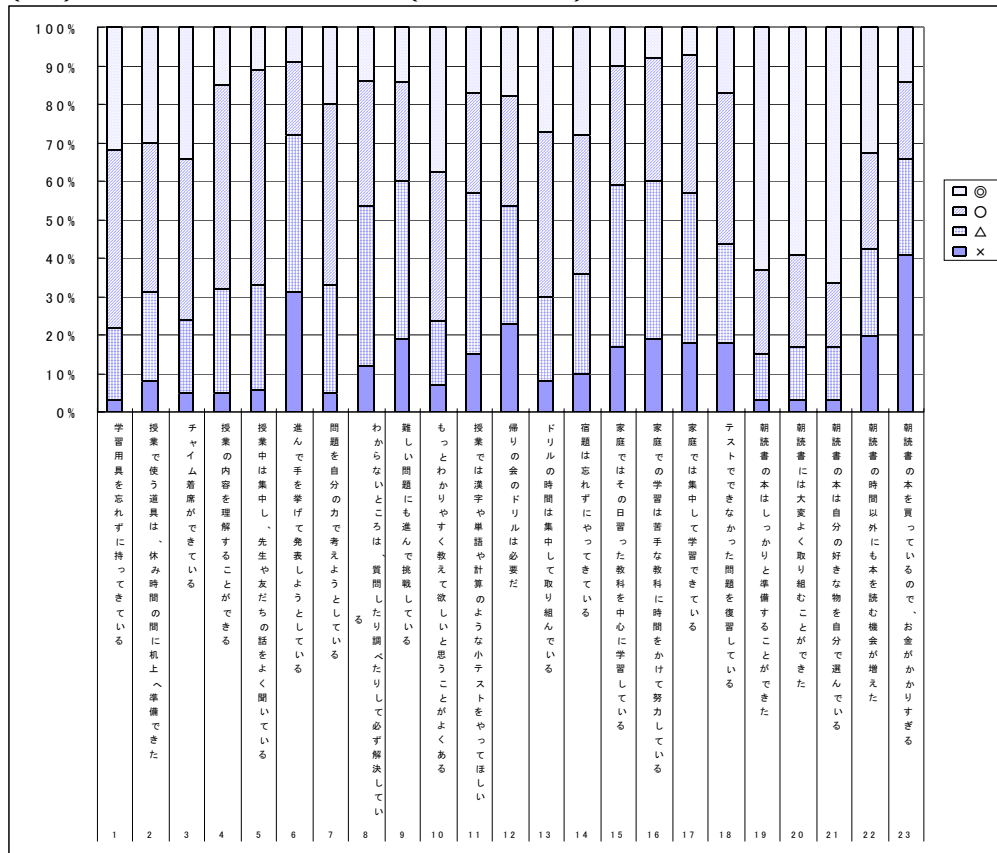
1. 研究成果

- (1) 標準学力検査(4月実施)の結果から  
 全国通過率を100とした場合の本校通過率(%)が100を下回った学年・教科は3年社会、2年数学、2年英語、3年数学、3年英語であった。この結果からわかるように、英語や数学といった基礎学力の上に積み重なって新たな学力が構築される教科において、あまり定着していないことがわかる。  
 この結果を受けて、3年数学・英語では選択の時間を利用して「基礎コース」と「発展コース」といった習熟度別コースを設定することによって、一人一人の生徒の「つまづき」に対応しながら授業を展開し、基礎学力の向上を図った。また、2年数学・英語では日々の授業における小テストで基礎学力の定着具合を把握し、週1回程度の補習を行うことで基礎学力の向上を図った。  
 その結果、本当に学力の向上が図れたかどうかは、平成16年度の標準学力検査で考察したい。
- (2) 「生きる力(確かな学力)」アンケート(12月実施)の結果から  
 本校独自で行っているアンケートであり、今年度で3年目の実施となっている。生徒の自己評価的アンケートであるため客観性には欠けるが、今年度の研究を振り返り、来年度の方針を立てる上で参考としたい。結果は次のようになっている。



この結果から、目標設定・課題発見力や主体的判断力・自己決定能力また、責任感は60%以上の生徒が身に付いていると感じているが、他は約半分の生徒が身に付いていないと感じていることがわかる。

(3)「学習に関する意識調査」(12月実施)の結果から



この結果から、朝読書やドリルへの取り組みが良いのに対して、難問やわか

らない問題に取り組む意欲が育っていないことがわかる。また、家庭での学習についても授業とは違って集中できていない状況であることがわかった。  
 更に、「もっとわかりやすく教えて欲しい」と感じている生徒が70%以上であることから、生徒一人一人の能力にあった指導法を改善していく必要があることもわかった。

## 2. 今後の課題

- (1) 到達基準を生徒に示し、評価を明確にして授業に生かす
- (2) 生徒一人一人の能力に合わせて補充・発展的な内容の充実を図る
- (3) 公開授業の実施によって、日々の授業の改善を図る
- (4) ドリル学習の充実を図り、基礎知識を身に付けさせる
- (5) 家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図る

### 学力把握のための学校としての取組

- \* 4月 標準学力検査実施  
客観的に本校生徒の学力を把握するために行っている
- \* 12月 生きる力アンケート実施(本校独自)  
生徒の実態把握(前年度との比較)と研究の反省、来年度の研究内容の吟味を目的に行っている
- \* 12月 学習に関する意識調査(本校独自)  
生徒の実態把握と研究の反省、来年度の研究内容の吟味を目的に行っている

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度教務主任研究協議会及び校長研究協議会において研究の概要説明

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                   7～9学級                         10～12学級  
                                   13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                   外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                   保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無